

14. 医歯薬学総合研究科

I	医歯薬学総合研究科の教育目的と特徴	14-2
II	分析項目ごとの水準の判断	14-3
	分析項目 I 教育の実施体制	14-3
	分析項目 II 教育内容	14-5
	分析項目 III 教育方法	14-10
	分析項目 IV 学業の成果	14-12
	分析項目 V 進路・就職の状況	14-17
III	質の向上度の判断	14-21

I 医歯薬学総合研究科の教育目的と特徴

1. 本研究科の教育目的

- ✚ 修士課程及び博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度な専門性を要する職業等に必要能力を養うこととしている。
- ✚ 博士課程及び博士後期課程は、医学、歯学及び薬学の領域において、創造的研究活動を行う上で必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識及び人間性を備えた優れた人材を養成し、もって医学・歯学・薬学の進歩及び人類の健康と福祉の増進に資することとしている。
- ✚ 以て、中期目標に掲げる、創造性豊かな自立した研究者の養成、各分野のリーダーの育成、高度専門職業人の養成の一翼を担う。

2. 各課程の人材養成目的

- ✚ 修士課程・医歯科学専攻〔以下、本文中では修士課程（医歯）と略記〕：医歯学の先端的研究及び医療の推進に貢献しうる人材、及び医学、歯学の知識を併せ持つ高度な技術者など新たなニーズに応えるための人材を養成する。
- ✚ 博士課程〔以下、博士課程（医歯）と略記〕：生体制御科学、病態制御学、機能再生・再建科学、社会環境生命科学の4専攻：国際社会において高く評価され、地域社会に広く活用される研究成果の創出を基礎として、創造性豊かな自立した研究者、研究・教育・医療におけるリーダー、並びに高度な専門知識と、豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を養成する。
- ✚ 博士前期及び後期課程・創薬生命科学専攻〔以下、本文中では博士前期・後期課程（薬）と略記〕：生命現象の生理的維持制御並びに疾患の発生における要因の解明、新規医薬品の創製、医薬品の臨床における適正使用に係る情報発信、及び公衆の保健・衛生に係る諸問題の解決について薬学的見地から科学的に研究し、広く人類の健康に貢献する薬学研究のスペシャリストを養成する。

3. 本研究科の特徴

- ✚ 平成17年度より医・歯・薬学の融合を特徴とする総合大学院方式を採っている。構成は、修士課程：医歯科学専攻、博士課程：上記4専攻、博士前期及び後期課程：創薬生命科学専攻の計4課程7専攻からなる。
- ✚ 修士課程・医歯科学専攻：平成15年度新設で、医学・歯学領域以外の4年制学部卒業生を受け入れている。
- ✚ 博士課程・上記4専攻：昭和30年度設置の大学院医学研究科、及び昭和61年度設置の歯学研究科（共に博士課程）が、平成13年度より部局化し設置された。
- ✚ 博士前期及び後期課程・創薬生命科学専攻：自然科学研究科博士前期課程の薬品科学専攻及び医療薬学専攻並びに同博士後期課程生体機能科学専攻の一部を、平成17年度から本研究科へ移行することにより設置された。

4. 想定する関係者とその期待

関係者を、歯学及び薬学も含めて医学・医療全般の進歩を享受する社会と捉え、高度な医歯薬学研究を推進し、「高度な医療をやさしく提供できる」優秀な人材育成が期待されていると捉えている。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本研究科には、教授 77 名、准教授 64 名、講師 66 名、助教 119 名、助手 3 名、計 279 名の教員を配置し、設置基準を上回っている(資料 1-1-1)。広く任期制を採用するとともに、教授選考は公募を原則としている。

本研究科の教育・研究全般に関する事項等は、制度上は研究科教授会で審議・決定するが、運営の機動性を重視して代議員会方式を併用している。さらに専攻会議を定期開催し、専攻長を中心に大学院教育の実質化について検討する体制を整えている。

学務に関する事項は、学務委員会を定期開催し、シラバスや研究指導計画書の作成、学位論文審査の改善等で主導的役割を果たしている(資料 1-1-2)。

本研究科は、4 課程にわたる多彩な 7 つの専攻を擁し、全課程で収容定員を十分に満たしている。修士課程(医歯)と博士前期・後期課程(薬)では、定員を上回る学生を確保している(資料 1-1-3)。

大学院と学部教育の連携や医療人キャリア支援のため医療教育統合開発センター(資料 1-1-4)を設置し、さらに関連の医療機関に呼びかけて岡山医師研修支援機構(NPO 法人)(資料 1-1-5)設立した。

資料 1-1-1：医歯薬学総合研究科研究指導教員及び研究補助教員一覧

平成 19 年 5 月 1 日現在

課程	専攻	設置基準で必要な教員			教員の現員		
		研究指導教員数	(内数：教授)	研究指導補助教員	研究指導教員の計	(内数：教授)	研究指導補助教員の計
修士	医歯科学	6	(4)	6	118	(67)	14
	(4 専攻の計)	64	(44)	30	119	(67)	15
博士	生体制御科学	20	(14)	9	41	(24)	3
	病態制御科学	18	(12)	9	32	(18)	5
	機能再生・再建科学	15	(10)	7	28	(13)	0
	社会環境生命科学	11	(8)	5	18	(12)	7
博士前期	創薬生命科学	10	(8)	6	36	(15)	10
博士後期	創薬生命科学	8	(6)	6	26	(9)	8

(出典：学長室, 学務部資料)

資料 1-1-2：平成 19 年度学務委員会開催回数

課程	専攻	回/年間
修士	医歯科学	6
博士	生体制御科学	12
	病態制御科学	

	機能再生・再建科学	
	社会環境生命科学	
博士前期	創薬生命科学	18
博士後期	創薬生命科学	

(出典：学務課資料)

資料 1-1-3：医歯薬学総合研究科学生数一覧

平成 19 年 5 月 1 日現在

課程	専攻名	入学定員	現員() 内は女子で内数*				合計
			1 年	2 年	3 年	4 年	
修士	医歯科学	20	32(12)	35(17)			67(29)
博士	(4 専攻の合計)	128	111(42)	121(28)	147(40)	330(100)#	709(210)
	生体制御科学	40	13(4)	31(7)	34(6)	87(28)	165(45)
	病態制御科学	36	51(16)	70(16)	67(16)	164(38)	352(86)
	機能再生・再建科学	30	29(16)	13(2)	30(10)	48(15)	120(43)
	社会環境生命科学	22	18(6)	7(3)	16(8)	31(19)	72(36)
博士前期	創薬生命科学	65	94(39)	67(25)			161(64)
博士後期	創薬生命科学	16	34(5)	25(8)	18(9)		77(22)

*標準修業年限を超えて在籍する学生は、標準修業年の欄に記載(長期履修生を含む)

#医歯学総合研究科の学生(このほか医学研究科の学生 47 名が在籍) (出典：学務課資料)

資料 1-1-4：「岡山大学医療教育統合開発センター」概要

設立：平成 17 年 4 月。
 組織：専任教授 1 (医学系)，専任准教授 1 (薬学系)，専任助教 3 (医学系 2，歯学系 1)。
 目的：1) 医療教育を行う医学，歯学，保健・看護，薬学の 4 分野について，新しい教育プログラムを企画・立案し，4 部門の教務委員会に提唱する。
 2) 4 部門の教育に関して，部門間の問題点を協議し，調整する。
 3) 平成 19 年度からは，大学院教育部門を設立し，学系間の協力体制を強化した。

(出典：学務課資料)

資料 1-1-5：「特定非営利活動法人 岡山医師研修支援機構」概要

設立：平成 17 年 10 月に準備委員会設立，平成 18 年 6 月 23 日に認証
 基本理念：医療施設と医育機関である大学とが対等な立場で連携していくこと
 目的：医師の研修及びキャリアプランの支援に関する事業を行うこと
 取り組む事項：
 ・ 若い医師の視点に立った後期研修プログラムを提供する
 ・ 研修する医師の希望に沿ったプログラムを提供するための優れた指導体制を構築する
 ・ 大学院教育と整合性のあるプログラムも選択肢とし研究志向を持つ医師の育成を視野に入れる
 ・ 研修の課程に地域の中小病院での経験も組み込む

(出典：学務課資料)

観点 教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

全学ファカルティ・ディベロップメント (FD) ワークショップにおいて，平成 18 年度は，主題：「大学院授業の向上を目指して」を取り上げた。本研究科長が基調講演を行い，33 名の教員が参加した(資料 1-2-1)。

本研究科の基盤となる 3 学部ともに，極めて専門性の高い学問領域であり，学部で習得したことの延長上に大学院の教育・研究があるため，FD の取組は，学系毎に学部と合同で行われてきた。平成 19 年度からは，管理学則に大学院教育の FD の推進を掲げ，大学院学務委員会が FD ワークショップを共催し運営に参画するようになった。

医学系 FD ワークショップ(資料 1-2-2)は平成 7 年以降延べ 14 回を数え，大学院教育に関するテーマも随時取り扱ってきた。歯学系でも，卒前卒後の教育に焦点をおいた FD ワークショップが実施されている。薬学系 FD 委員会は，大学院と学部の両方を担当して年数回開催し，大学院における授業の改善，シラバス及び授業評価アンケートの内容の改善等に大きく貢献してきた(別添資料 1-2-a:薬学系及び薬学部 FD 委員会開催履歴,P14-23)。

平成 17 年度には，国際外部評価報告書を公表した(別添資料 1-2-b:国際外部評価報告書表紙，P14-24)。

資料 1-2-1：全学 FD 教員研修「桃太郎フォーラム」出席者数一覧

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
医学系教員	9	15	19	20
歯学系教員	12	9	6	10
薬学系教員	10	11	8	11

(出典：学務課資料)

資料 1-2-2：医学系 FD のテーマ例示

		テーマ
平成 18 年度	基調講演	医学系教員参加による医学英語教育
平成 19 年度	基調講演	チーム医療の有効実施にむけた教育とは？

(出典：学務課資料)

別添資料 1-2-a. 薬学系及び薬学部 F D 委員会開催履歴

別添資料 1-2-b. INTERNATIONAL REVIEW REPORT 2001-2004, Graduate School of Medicine and Dentistry, Okayama University 報告書表紙のコピー

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 本研究科の全専攻で，設置基準を上回る充実した教員組織を有しており，学生数も定員をほぼ満たしている。教育体制を整備し常に質の高いものとするために学務委員会が，各課程とも活発に活動している。また全学あるいは学系毎の FD ワークショップに多数の大学院教員が出席し，大学院教育も含めて討議している。

分析項目Ⅱ 教育内容**(1) 観点ごとの分析****観点 教育課程の編成**

(観点に係る状況)

修士課程(医歯)では，医歯学に関する知識と技術を体系的かつ集中的に教育する目的で，入学後の数ヶ月は講義を中心とした教育を実施し，その後，専門科目を通して，各専

攻分野の研究室での演習・実習を中心の授業を実施している（資料 2-1-1）。

博士課程（医歯）のカリキュラムは、研究方法論基礎・応用、課題研究セミナー、専門科目に大別される（資料 2-1-2）。研究方法論は医学、歯学、薬学系の教員が担当するオムニバス講義であり、医療系の基礎となる講義を幅広く提供する。専門科目は、主科目と副科目を履修し、授与される学位に応じた研究を展開する。

博士前期・後期課程（薬）では、オムニバス形式の幅広い内容を盛込んだ授業科目と、専門的な内容の授業科目とを組み合わせ、先進的及び学際的分野に対応した体系的な教育課程を編成している（資料2-1-3）。いずれも1年次に授業科目を中心として履修し、2（3）年次には研究に重点を置き学位論文を作成する教育課程を編成している。

資料 2-1-1：修士課程医歯学専攻カリキュラムブロック図

	必要単位数	年次ごとの単位取得例	
		1年次	2年次
インテンシブ コースワーク (医歯科学概論・生命倫理学・人体構造学(口腔構造機能学)・人体生理学・生化学・病理病態学・総合薬理学・生体材料学・社会医歯科学・臨床医歯科学概論・人体解剖学実習)	20	⇒ 20	
専門科目 (分子医科学総論(生体防御医学総論・再生医療学総論・細胞組織工学総論・臨床治験学総論・医療情報学総論脳神経科学総論・病態機構学総論・口腔機能再建学総論・口腔病態学総論) 医科学演習(歯科学演習)) (医科学実習(歯科学実習))	6	⇒ 6	
	4		⇒ 4
計	30		

(出典：学務課資料)

資料 2-1-2：博士課程(医歯)カリキュラムブロック図

	必要単位数	年次ごとの単位取得例			
		1年次	2年次	3年次	4年次
研究方法論基礎	5	⇒ 5			
研究方法論応用	4	⇒ 4			
課題研究	5			⇒ 5	
専門科目					
主科目 講義・演習	4		2	2	
演習・実習	8		4	4	
副科目1 講義・演習	2		2		
副科目2 講義・演習	2			2	
計	30				

(出典：学務課資料)

資料 2-1-3：創薬生命科学専攻のカリキュラムブロック図
博士前期課程

	必要単位数	年次ごとの単位取得例	
		1年次	2年次
薬品科学概論	1	⇒	
医療薬学概論	1	⇒	
創薬生命科学セミナー	8	⇒	
創薬生命科学特別研究	10	⇒	
専門科目 講義	10	⇒	
創薬生命科学実習		⇒	
修士論文作成			⇒
計	30		

博士後期課程

	必要単位数	年次ごとの単位取得例		
		1年次	2年次	3年次
研究方法論基礎	2	⇒	⇒	
研究方法論応用	2	⇒	⇒	
課題研究	4	⇒		
専門科目 講義	6	⇒		
博士論文作成				⇒
計	14			

(出典：平成 19 年度創薬生命科学専攻「学生便覧」)

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

多様化する学習ニーズに合わせ、早期修了制度、長期履修制度、昼夜開講型講義(14 条特例)、社会人特別選抜試験等を導入している(資料 2-2-1, -2, -3)。また学部教育との連携を図るため、全学的に科目等履修生の取扱を整備した(資料 2-2-4)。さらに外国人留学生特別選抜試験や 10 月入学制の導入、国際交流協定締結等により留学生を多数受け入れている。(資料 2-2-3)。

修士課程(医歯)では、平成 19 年度に中国の大学と協定を結び、20 年度から単位互換を実施する(資料 2-2-5)。また、新興感染症等現代的課題への対応のため「国際医療保健コース」及び「衛生・公衆衛生人材育成コース」を平成 20 年度から開設した。

博士課程(医歯)では、国内の大学・研究機関との間で大学院生の派遣・受入を行っている。また研究指向の学生を早期に大学院に入学させる MD-PhD コースを実施している。さらに医療キャリアパスの変化に対応して、平成 19 年度から臨床専門医コース(資料 2-2-6)を開設した。

平成 19 年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に「中国・四国広域がんプロ養成プログラム—チーム医療を担うがん専門医療人の養成—」が採択された。これを受けて中国四国の大学等とコンソーシアムを構築し、平成 20 年度から「がんプロフェッショナルコース」(資料 2-2-7)を開始する。

さらに、博士課程(医歯)において厚生労働省が掲げる 4 疾患 5 事業に対応する履修コース及び学際的選択プログラム等を整備した。(資料 2-2-8)

資料 2-2-1：博士課程の社会人学生・長期履修者及び早期修了者数

年度 (平成)	社会人 /全入学者数 (%)	社会人 /在籍学生数 (%)	長期履修者 数	早期修了者 数	留学生/ /在籍学生数 (%)
17	72/152(47%)	229/788 (38%)	35	13	58/788 (7%)
18	91/124(73%)	374/780 (48%)	56	9	48/780 (6%)
19	66/111(59%)	416/756 (55%)	72	9	44/756 (6%)

(出典：平成 17 年度～19 年度学務に関する調査及び学務課資料)

資料 2-2-2：博士前期・後期課程（創薬生命科学専攻）の社会人・留学生受け入れ状況

課程	年度	在籍計	一般 (%)	社会人 (%)	留学生 (%)	その他 (%)
博士前期	17	162	158 (97.5)	1 (0.6)	3 (1.9)	0
	18	147	143 (97.3)	0	4 (2.7)	0
	19	162	156 (96.3)	0	6 (3.7)	0
博士後期	17	75	30 (40.0)	26 (34.7)	19 (25.3)	0
	18	74	22 (29.7)	33 (44.6)	19 (25.7)	0
	19	85	32 (37.6)	33 (38.8)	20 (23.5)	0

5 月 1 日現在の数 (出典：薬学系事務室資料)

資料 2-2-3：博士前期・後期課程（創薬生命科学専攻）の 10 月入学者受け入れ状況

課程	年度	入学者 計:A	10 月入学:B (%:B/A)	留学生:C (%:C/B)
博士前期	17	78	1 (1.3)	1 (100)
	18	66	2 (3.0)	1 (50)
	19	92	1 (1.1)	1 (100)
博士後期	17	24	4 (16.7)	2 (50)
	18	26	6 (23.1)	5 (83.3)
	19	32	12 (37.5)	4 (33.3)

(出典：薬学系事務室資料)

資料 2-2-4：岡山大学学生が科目等履修生として学部又は大学院の授業科目を履修する場合の取扱いについて (抜粋)

第 3 履修要件
1 (省略)

2 大学院学生の場合（以下の要件をすべて満たす者）

- (1) 当該学生の指導教員の承諾を得た者
- (2) 履修を希望する学部又は法務研究科において、出願資格を認められた者
- (3) 履修を希望する学部又は法務研究科の授業科目の担当教員の承諾を得た者

（出典：学務課資料）

資料 2-2-5：岡山大学-中国東北部大学院留学生交流プログラム（O-NECUS）概要

岡山大学の国際戦略，大学院教育の充実，研究人材の確保のため，岡山大学と中国東北部地域各大学間で次に掲げる修士課程の大学院交流プログラムを全学主導で推進し実施する。

1. 共同学位（ダブル・ディグリー）制度
2. 短期留学（単位互換）制度
3. サマーインスティテュート制度
4. 上記プログラム遂行のため，中国に岡山大学国際交流分室の設置

（出典：学務課資料）

資料 2-2-6：博士課程「臨床専門医コース」概要

背景となる社会からの要請：従来の大学院は，研究者養成を目的としてきた。しかし，大学院修了者の多くは，臨床医師へ復帰する場合が多い。このような大学院に対するニーズの多様化に対応するため。設置の目的：

- ・ 高度な専門的臨床能力を習得すること
- ・ 大学院の教育と研究は，臨床研究関連に特化すること

コースワークの概要：疫学，臨床研究論，医療統計学により臨床研究を進めていく方法を学び，その成果として臨床研究を自ら行い，博士論文として発表する。

（出典：学務課資料）

資料 2-2-7：博士課程「がんプロフェッショナルコース」概要

目的：がんを横断的・集学的に診療できる専門家の養成を目指す。

コースワーク：がんの特化した医療人の養成とチーム医療の教育の充実のため，以下のコースのカリキュラムを設定する。

- ・がん薬物療法専門医コース
- ・放射線治療医コース
- ・緩和療法医コース
- ・腫瘍外科医コース
- ・がん専門薬剤師コース

（出典：学務課資料）

資料 2-2-8：博士課程 平成 20 年度開始のコース及び選択プログラム

- ・高齢者・在宅医療・緩和医療コース
- ・国際臨床研究コース
- ・脳卒中プログラム
- ・心筋梗塞プログラム
- ・メタボリックシンドロームプログラム
- ・アンチエイジングプログラム（医学）
- ・アンチエイジングプログラム（歯学）

（出典：学務課資料）

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準を大きく上回る。

（判断理由）医学，歯学，薬学の研究・教育体制を統合し，それぞれの教育が有機的かつ合理的に作用し合う教育課程を体系的に編成してきた。また多様な学習ニーズに応えるべく，社会人の就学，学部教育との連携等に関する制度を整備し，臨床専門医コース等の充実を図っている。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

各課程の授業科目と授業内容は、学生便覧及びシラバスで公表し、ウェブサイトでも公開している。各課程では、講義だけでなく、演習、実習・実験、特別研究等を実施している。特に平成19年の大学院設置基準の改定を受けて、授業方法の併用実施を促進し、機動的なカリキュラムを編成している。また国の重要プロジェクトに採択された研究領域の成果を授業内容に反映している(資料3-1-1)。さらに博士前期・後期課程(薬)を中心に、TA・RAとして多くの優秀な大学院学生を採用し、教員の指導の下にそれぞれ博士前期課程又は学部学生の授業や実験、実習等の補助的役割及び研究プロジェクト等における研究補助者としての役割を担っている(資料3-1-2)。

修士課程(医歯)では、1年次に、医学・歯学の基礎知識を習得させるため「インテンシブ・コースワーク」を設け、医歯科学概論等を開講している(資料2-2-1:博士課程の社会人学生・長期履修者及び早期修了者数, P14-8)。

博士課程(医歯)では、「研究方法論基礎・応用」を開講し、多様な授業科目(基礎:78主題, 応用48主題)の中から、自らの希望する主題の講義を選択することができる。「課題研究」では「課題研究セミナー」(資料3-1-3)が毎年2回開催される。これらの実績が評価され、文部科学省の平成19年度大学院教育改革支援プログラムに2件が採択された(資料3-1-4)。

博士前期・後期課程(薬)とも、授業形態をバランスよく組み合わせ、前期課程では講義(一部実習を含む)12単位、演習8単位、特別研究10単位以上、後期課程では講義及び演習10単位、課題研究4単位以上を修得することとしている(資料2-1-3:創薬生命科学専攻のカリキュラムブロック図, P14-7)。また、個別的な研究指導に加えて、複数又は単独の教育研究分野単位で創薬生命科学セミナー等の少人数教育を実施し、多面的な訓練を行っている。

資料3-1-1: 医歯薬学総合研究科の戦略的研究プロジェクトの授業への反映

先端融合領域: 科学技術振興調整費 イノベーション創出拠点の形成「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成」拠点リーダーの公文教授他の専門科目、研究方法論の授業に反映。

国際感染症領域: 文部科学省「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に採択され、「インド国を拠点とする新興・再興感染症研究」を推進。拠点リーダーの岡本教授他の特別研究等で授業に反映。

資料3-1-2: TA・RAの採用状況

年度 (平成)	TA					RA		
	医歯薬学 全体*	修士課程	博士前期 課程	博士課程	博士後期 課程	医歯薬学 全体*	博士課程	博士後期 課程
16年度	317	6	144	127	40	34	32	2
17年度	331	10	154	129	38	52	36	16
18年度	308	10	141	124	33	45	33	12
19年度	332	21	155	121	35	70	53	17

※博士前期課程及び博士後期課程については、改組前の自然科学研究科(薬学系)学生の採用状況を含む数字である。(出典:学務課資料)

資料 3-1-3：課題セミナーの実施（平成 19 年度秋期を例示）

専攻	大講座	開催日 10 月	会場	世話教授	発表者数
生体制御科学	機能制御学	18 日木 16 時～	臨床第二講義室	佐野教授	13
	脳神経制御学	19 日金 16 時～	臨床第二講義室	伊達（勲）教授	10
病態制御科学	病態機構学	23 日火 16 時～	臨床第二講義室	土居原准教授	16
	腫瘍制御学	22 日月 15 時 30 分～	臨床第二講義室	金澤教授	17
機能再生・再建科学	生体機能再生・再建科学	24 日水 16 時～	歯学部第一講義室	松尾教授	8
	口腔・顎・顔面機能再生制御学	26 日金 16 時～	歯学部第一講義室	松尾教授	8
社会環境生命科学	法医生命倫理学，国際環境科学，長寿社会医学	25 日木 16 時～	臨床第二講義室	荻野教授	6

（出典：学務課資料）

資料 3-1-4：平成 19 年度大学院教育改革支援プログラム採択一覧

教育プログラムの名称	主たる専攻
ユニット教育による国際保健実践の人材育成 （－アジア諸国と連携した国際医療・保健推進と人材育成プログラム－）	社会環境生命科学専攻
医療系大学院高度臨床専門医養成コース （電子ポートフォリオが仲介する双方向コミュニケーションと横断的医療教育）	機能再生・再建科学専攻

（出典：学務課資料）

観点 主体的な学習を促す取組

（観点に係る状況）

各課程では、入学当初から各研究室に配属されて、指導教員との対話の中で、研究テーマの希望等を反映、研究計画を構築し、学位論文に係わる指導を受けていたが、平成 19 年度からは、全学的に研究指導計画書（別添資料 3-2-a：研究計画書，P14-25）が導入された。研究テーマの選択，方法論の選択，具体的な実験計画を，学生と指導教員の相互の同意により取りまとめて，毎年度初めに提出することを課すことによって，学生の主体的研究活動を促し，これに複数の指導教員の示唆と提案を反映させるシステムが構築されている。

各課程では、配属された各研究室で学習・研究環境の充実が図られているほか，研究施設の利用時間を拡大し，自主的主体的な学習・研究環境を整えている（資料 3-2-1）。

博士課程（医歯）では，課題研究セミナーが主体的学習の促進に役立っている。学生は，中間段階の研究を発表し，多様な示唆を受ける。この過程で，能動的に学び議論する研究者としての基礎力や，自ら問題点を指摘する能力を身につける（資料 3-2-2，-3）。

博士前期・後期課程（薬）では，年度初めの新入生オリエンテーションで学務委員長が履修指導を行い，また，指導教員が個別に履修指導を行うなど，組織的に指導している（別添資料 3-2-b：平成 19 年度博士前期・後期課程新入生オリエンテーションの内容，P14-27）。また，年度初めに研究指導計画書内の学生記入欄（1 年間の研究計画）を作成させ，主体的な学習並びに研究を促している（別添資料 3-2-a：研究計画書，P14-25）。

資料 3-2-1：24 時間利用可能な教育・研究施設

附属図書館鹿田分館

自然生命科学研究支援センター 動物資源部門
自然生命科学研究支援センター 光・放射線情報解析部門
自然生命科学研究支援センター ゲノム・プロテオーム解析部門
医学部共同実験室, 歯学部共同利用施設
薬学系図書室
薬学系講義室：授業や演習で使用していない時間には 21 時まで自主学習に開放

(出典：学務課資料)

資料 3-2-2：課題研究セミナー発表数

	夏季	秋季	計
平成 17 年度	47	65	112
平成 18 年度	47	69	116
平成 19 年度	47	78	122

(学務課資料)

資料 3-2-3：平成 19 年度課題研究セミナーのタイトルの例示

1	Relationship between SCN5A mutation and atrial vulnerability in Brugada syndrome
2	Evaluation of the Biological Behavior of Oral Mucosal Melanoma
3	A prototype model using CDA with Japanese local standard - Designing and implementing a referral letter system

(学務課資料)

別添資料 3-2-a. 研究計画書 記載例

別添資料 3-2-b. 平成 19 年度博士前期・後期課程新入生オリエンテーションの内容

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) インテンシブ・コースワーク(修士課程(医歯)), 研究方法論基礎・応用(博士課程(医歯))から各専門科目, 並びに修士論文及び博士論文作成のための研究指導まで, 講義と演習等が適切に配置されている。また, 研究指導計画書の導入や, 中間段階での課題セミナーでの発表と討議(博士課程(医歯))を通して, 主体的な学習・研究が促進されている。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

学位審査は, 課程毎に委員会の構成, 論文の提出方法等を定めて実施している。「学位申請の手引」を公開していて, 審査委員は学務委員会等で選出される。審査委員会は公開で, 論文発表及び最終試験が行われ, 審査報告書(別添資料 4-1-a: 博士課程学位審査報告書 例示, P14-28)に基づき, 教授会で合否の判定を行っている。以下に学位授与の状況(資料 4-1-1)を示す。

修士課程(医歯)においては, 2年間での単位取得と thesis 提出が概ね順調になされている。審査委員会での質疑討論も非常に活発である。

博士課程(医歯)においては, 標準修業年限内での修了は入学者全体の 1/3 程度に留まるが, 最終的に約 9 割が課程修了により学位を取得している(資料 4-1-2)。このことは全

国の医学系大学院共通の課題として、臨床専門研修と大学院教育を併行させることと関連している。本課程では査読付き論文の提出が義務付けられており、ほとんどが欧文誌に受理されている。医学系の課程修了学位論文 313 編の平均インパクトファクター 3.10 点であり、大学院終了時として、かなりの水準にある（資料 4-1-1, -3）。研究奨励の学内賞受賞者の中で博士課程修了者は約 6 割を占めている（資料 4-1-4）。

博士前期・後期課程（薬）では、修士及び博士の学位授与件数、入学時の人数に対する割合はそれぞれ平均 89%及び 91%、学位授与者のうち標準修業年限内に取得した割合は、修士で 99%及び博士で 96%と極めて高い（資料 4-1-5）。博士前期課程学生一人当たり、平均して年に 0.56 編の論文の、1.70 編の学会発表の著者となっており、博士後期課程学生一人当たり年に 1.02 編の論文の、2.09 編の学会発表の著者となっている。また 4 年間で計 10 件の受賞がある（資料 4-1-6）。

資料 4-1-1：医歯学系の学位授与数及び平均インパクトファクター

博士（甲）

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	計	平均インパクトファクター
博士（医学）	54	83	86	90	313	3.10
博士（歯学）	20	22	26	26	94	2.54
博士（学術）	0	1	3	1	5	—

博士（乙）

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	計	平均インパクトファクター
博士（医学）	74	61	37	42	214	2.73
博士（歯学）	0	1	3	3	7	—
博士（学術）	0	0	0	0	0	—

修士

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	計
修士（医科学）	12	17	12	31	72
修士（歯科学）	5	4	3	2	14

（出典：学務課資料）

資料 4-1-2：博士課程（医学研究科、医歯学総合研究科）の学位取得状況

年度 （平成）		入学者	在籍者数	退学者数	早期修了 （3 年）	修業年限内 学位授与者	修業年限内 学位授与率	課程修了 学位授与者	最終的な 学位授与率
2	医学 研究 科	54	0	4		31	57.4	50	92.6
3		67	0	8		28	41.8	59	88.1
4		65	0	6		27	41.5	59	90.8
5		68	0	6		14	20.6	62	91.2
6		69	0	7		27	39.1	62	89.9
7		63	0	6		18	28.6	57	90.5
8		62	0	6	1	20	32.3	56	90.3
9		49	0	4		17	34.7	45	91.9
10		70	5	11		15	21.4	54	77.1
11		75	6	5		23	30.7	64	85.3
12		111	24	8	6	35	31.5	79	71.1

13	医歯 学総 合研 究科	139	26	20	4	43	30.9	93	66.9
14		143	49	14	1	45	31.5	80	55.9
15		161	58	23	6	59	36.6	80	49.7
16		156	86	14	3	57	36.5	57	36.5
						平均	33.9*	平均	90.4#

*平成15年度入学者までの平均, #平成8年度入学者までの平均 (出典:学務課資料)

資料 4-1-3: 医学系学位取得論文の例

	論文タイトル	掲載雑誌名	インパクト ファクター
1	Monolayered mesenchymal stem cells repair scarred myocardium after myocardial infarction (単層間葉系幹細胞シートを用いた心筋梗塞治療)	Nature Medicine 12, 459-465, 2006	31.223
2	A human β -cell line for transplantation therapy to control type 1 diabetes (1型糖尿病に対する移植療法に向けたヒト膵 β 細胞株の樹立)	Nature Biotechnology 23, 1274-1282, 2005	22.738
3	Thiazolidinediones Ameliorate Diabetic Nephropathy via Cell Cycle-Dependent Mechanisms (チアゾリジン誘導体は細胞周期依存性メカニズムにより糖尿病性腎症を改善する)	Diabetes 55, 1666-1677, 2006	8.848

(出典:学務課資料)

資料 4-1-4: 岡山医学会賞全受賞者における博士課程大学院生及び課程修了者数等

	全受賞者数	大学院生及び課 程修了者	論文提出による 学位取得者
平成16年度	11	6	0
平成17年度	15	9	2
平成18年度	12	8	3
計	38	23	5

(出典:学務課資料)

資料 4-1-5: 博士前期・後期課程の学位取得状況

課程	修了年月 (平成)	入学時 の人数 (A)	論文提出による 学位取得者				
			総数(B)	超過年限 で取得し た人数	標準年限内 に取得した 人数(C)	学位授与 率(B/A) (%)	標準年限内取得 率C/B (%)
博士 前期	16年9月	1	1		1	100%	100%
	17年3月	75	60	2(H14/10)	58	80%	97%
	17年9月	1	1		1	100%	100%
	18年3月	84	76		76	90%	100%
	18年9月	1	1		1	100%	100%
	19年3月	78	74	1(H16/10)	73	95%	99%
	19年9月	2	2		2	100%	100%
	計	242	215	3	212	89%	99%
博士 後期	16年9月	2	2	1(H13/4)	1	100%	50%
	17年3月	21	18		18	86%	100%
	17年9月	3	3		3	100%	100%

	18年3月	24	20		20	83%	100%
	18年9月	8	8		8	100%	100%
	19年3月	14	12		12	86%	100%
	19年9月	4	6	2 (H16/4, H15/10)	4	150%	67%
	計	76	69	3	66	91%	96%

()内は入学年/月

(出典：薬学系事務室資料)

資料 4-1-6：博士前期・後期課程の論文発表，学会発表及び受賞状況

課程	年度 (平成)	在籍人数 (人) (A)	論文発表			学会発表			受賞
			総数 (編)(B)	延著者数 (人)(C)	C/A	総数 (編)(D)	延著者数 (人)(E)	E/A	
博士前期	16	155	49	91	0.59	135	236	1.52	1
	17	162	23	68	0.42	161	306	1.89	1
	18	147	37	93	0.63	191	342	2.33	2
	19	162	30	98	0.6	87	181	1.12	1
	平均	156.5	34.8	87.5	0.56	143.5	266.3	1.7	1.25
博士後期	16	74	34	61	0.82	106	184	2.49	1
	17	75	48	82	1.09	80	171	2.28	1
	18	74	46	96	1.3	101	177	2.39	3
	19	85	47	75	0.88	72	113	1.33	0
	平均	77	43.8	78.5	1.02	89.8	161.3	2.09	1.25

(出典：創薬生命科学専攻「大学院学生の論文発表等アンケート」集計結果)

別添資料 4-1-a. 博士課程学位審査報告書 例示

観点 学業の成果に対する学生の評価

(観点に係る状況)

平成 17 年度全学的に大学院アンケートを実施し，学生の学業の成果に対する評価の幾つかの傾向が示されている(資料 4-2-1)。「カリキュラムの体系的・系統性」については「普通」，「研究指導に対する満足度」については「満足」とする回答が多数を占めるなど，概ね良好であった。

さらに全学の方針を受けて，博士前期・博士課程(薬)では，学生による授業評価アンケートを実施している。平成 18 年度後期の前期課程(薬)の総合評価は平均して 5 段階評価の 4.1 点，後期課程(薬)の総合評価は平均 4.1 点であり，いずれも学生の評価は高いといえる(資料 4-2-2)。

修士課程(医歯)では「学生・教員意見交換会」(資料 4-2-3)を開催し，「有益な講義がなされている」「学士教育のバックグラウンドの違いに配慮した講義を要望する」等の代表的な意見を聴取している。博士課程(医歯)では，研究方法論の各回の担当教員が，ミニレポート・小テスト等を課し，同時に当該講義への感想を記載させているが，概ね評価は良好であった(資料 4-2-4)。これらの取り組みに加えて，「博士課程学位取得者アンケート調査」を平成 19 年度から開始した(資料 4-2-5)。

資料 4-2-1：大学院アンケートにおける医歯薬学総合研究科学生の回答の概要

回答率：	修士全体：48.6%， 修士課程(医歯)：38.2%， 博士前期課程(薬)：43.6%
	博士全体：29.4%， 博士課程(医歯)：12.6%， 博士後期課程(薬)：33.3%

カリキュラムの体系性・系統性：	修士課程（医歯）：53.8%が「普通」，23.8%が「高い」。 博士前期課程（薬）：73.5%が「普通」，4.2%が「高い」，2.9%が「非常に高い」。 博士課程（医歯）：43.8%が「普通」，24.7%が「高い」，9.6%が「非常に高い」。 博士後期課程（薬）：60.0%が「普通」，20.0%が「非常に高い」。
研究指導に対する満足度：	修士課程（医歯）：30.7%が「普通」，30.7%が「満足」，30.7%が「非常に満足」。 博士前期課程（薬）：25%が「普通」，50%が「満足」，16.2%が「非常に満足」。 博士課程（医歯）：24.7%が「普通」，39.7%が「満足」，24.7%が「非常に満足」。 博士後期課程（薬）：20%が「満足」，60%が「非常に満足」。

（出典：教育開発センター 大学院教育専門部会）

資料 4-2-2：「学生による授業評価アンケート」集計結果（平成 18 年度後期）

		博士前期課程	博士後期課程
対象授業科目数		8	5
総履修者数		232	89
回答者数		137	54
回収率（%）		59.1	60.7
5 段階評価	質問項目 1：全体の総合評価	4.2	4.3
	質問項目 2：担当教員の授業への熱意	4.2	4.2
	質問項目 9：分野の重要性の認識が深まった	4.2	4.4
	全 9 項目の平均	4.1	4.1

（出典：平成 18 年度後期「学生による授業評価アンケート」集計結果）

資料 4-2-3：修士課程 学生・教員意見交換会の概要

	参加人数
平成 16 年度	31
平成 17 年度	—
平成 18 年度	40
平成 19 年度	54
計	125

（出典：学務課資料）

資料 4-2-4：博士課程 研究方法論におけるアンケートの記載例

<p>研究方法論（基礎）：平成 19 年度延べ出席数 2,706</p> <p>The lecture is very important should be known by the researchers.</p> <p>英語論文を書くまでの流れや書き方，アクセプトされるまでのことが順序だてて説明していただけて大変わかりやすく勉強になりました。</p> <p>動物実験施設の利用法について，法律等の詳しい説明があり，良く理解できました。動物実験の基準がかなり厳しいのを知りました。</p>

<p>研究方法論（応用）：平成 19 年度延べ出席数 1,812</p> <p>画像伝送が光ファイバーの導入で飛躍的に可能性が広がったことがわかった。</p> <p>脳の研究についてはまだまだ研究の余地が残っているようであり，基礎研究のレベルから画像診断・臨床研究など今後も進歩が期待できると感じました。行動学と小児歯科学を合わせてさらに写真などを織り交ぜてとてもわかりやすかったです。</p>

（出典：学務課資料）

資料 4-2-5：博士課程学位取得者アンケート調査 (n=26)

全体的な満足度：「大変良い」＋「良い」の割合；88.5%
講義・演習・実習の満足度：「大変良い」＋「良い」の割合；80.8%
研究指導・論文指導・学位審査の満足度：「大変良い」＋「良い」の割合；88.5%
自由意見： 学術的な考え方が身に付いた。海外での学会発表する機会も与えられた。 途中での研究発表（課題セミナー）で、他教授の客観的な意見が聞けて良かったと思うし、それが後日役だったと思います。 臨床をしながらの研究で、忙しかったが、実地から離れないでよかった。

(出典：学務課資料)

(2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る。

(判断理由) 修士課程(医歯)在籍者は、順調に標準修業年限内で課程を修了し学位を取得している。博士課程(医歯)では、標準修業年限内での修了は入学者全体の1/3程度に留まるが、最終的に9割が学位取得している。ほとんどの学位論文が欧文査読誌に受理されており、医学系の平均インパクトファクターは3.10と、かなり高い水準にある。博士前期・後期課程(薬)の修士及び博士の標準修業年限内学位取得率はともに約90%を誇り、論文発表数及び学会発表数は極めて多く、適切な研究指導の成果といえる。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1)観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点到に係る状況)

修士課程(医歯)では大学院への進学または企業へ就職する者が多い(資料5-1-1)。博士課程(医歯)では、就職区分上は自営その他に分類されるが、詳細は後述する。

博士前期課程(薬)修了後の進路(3年間の平均)は、博士後期課程への進学が16~28%、製薬会社などの企業への就職(主に研究者)が31~48%、病院や薬局への就職が21~29%、公務員が1~7%、その他が6~13%であった(資料5-1-2)。就職希望者の就職率は88~98%で、就職の地域別では岡山県内が16~28%、県外が72~84%であった。

博士後期課程(薬)修了後の進路は、大学その他の公的機関への就職(主に教育・研究者)が30~57%、製薬会社などの企業への就職(主に研究者)が17~50%、病院や薬局への就職が0~9%、その他が17~30%であった(資料5-1-3)。就職希望者の就職率は100%で、就職の地域別では岡山県内が7~31%、県外が69~93%で、県外の中には、ポスドクトラルフェローとして海外へ就職した2名が含まれる。

博士課程(医歯)修了者では、医師・歯科医師の場合、医療機関への就職が大部分である。勤務形態は、修了後年数により推移するが、概ね、自立した研究者、教育・医療におけるリーダー、並びに高度な医療職業人を多数輩出している(資料5-1-4)。

資料 5-1-1：平成 18 年度修了者の就職(進学)状況

課程	専攻	修了者	進学状況		就職状況(決定者)				その他	就職率(%)
			大学院	院以外	企業	教員	官公庁	自営その他		
修士	医歯科学専攻	15	6	0	8				1	100
博士	4専攻*	116	0	10		4		92	9	100

博士前期	創薬生命科学	76	12	0	42	1	1	19	1	98.4
博士後期	自然科学研究科(薬学系)	21	0	0	10	6	0	5	0	100

(出典：学務部資料)

資料 5-1-2：博士前期課程修了生の就職状況

年度 (平成)	進学		企業		病院・薬局		公的機関		その他		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
16年度	17	27.9	19	31.1	13	21.3	4	6.6	8	13.1	61
17年度	13	16.9	35	45.5	17	22.1	3	3.9	9	11.7	77
18年度	12	15.8	35	46.1	21	27.6	1	1.3	7	9.2	76

(出典：薬学系事務室資料)

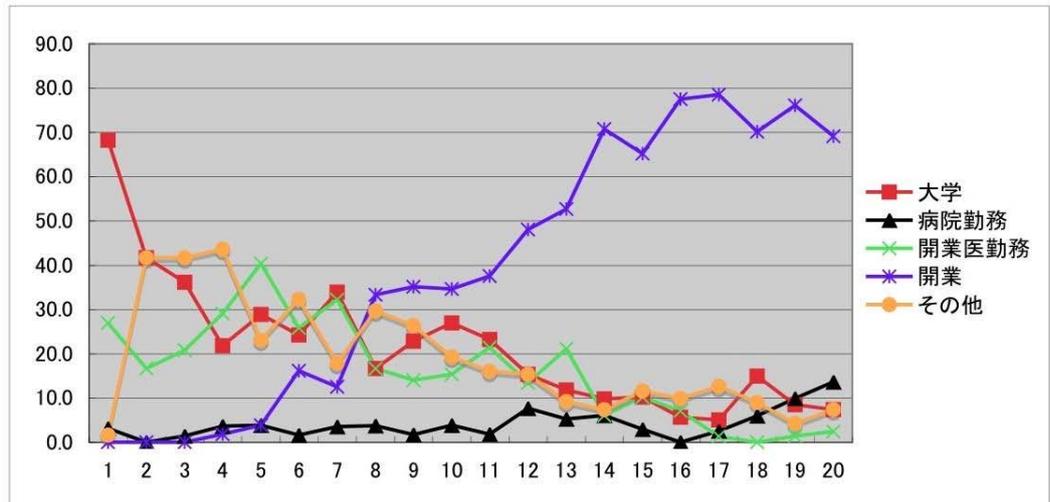
資料 5-1-3：博士後期課程修了生の就職状況

年度 (平成)	大学等		企業		病院		その他		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
16年度	9	45.0	5	25.0	0	0.0	6	30.0	20
17年度	13	54.2	4	16.7	2	8.3	5	20.8	24
18年度	6	28.6	10	47.6	0	0.0	5	23.8	21

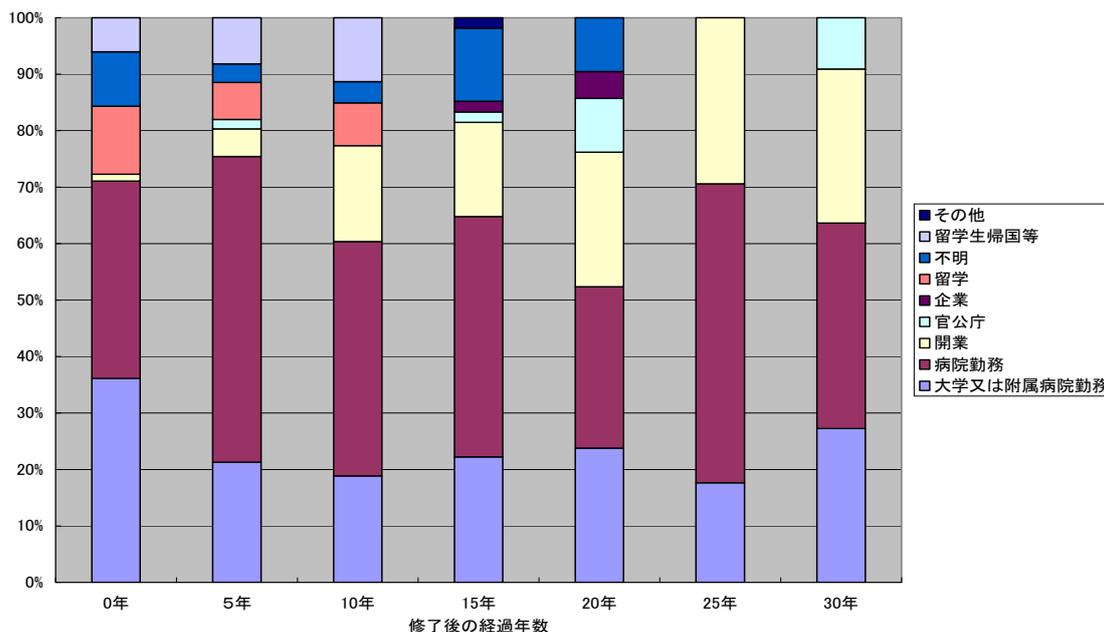
(出典：薬学系事務室資料)

資料 5-1-4：大学院修了後の進路の推移：横軸は修了後の年数

岡山大学歯学系卒業生の進路



医学系



観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

全学的に実施した企業へのアンケート（資料 5-2-1）によると、専門知識について、「基礎学力」はスコアが高く、「高度な専門知識・技術」、「即戦力となる技術・技能」、「即戦力となる技術・技能」はやや低かった。問題解決能力については、「分析力」と「情報処理能力」のスコアが高かった。人物評価では、協調性、責任感でスコアが高く、「リーダーシップ」ではスコアがやや低値であった。

本研究科の修了者のうち、医師、歯科医師の主な就職先である医療機関との定期的な懇談と意見交換の場（資料 5-2-2）が設けられている。聴取した意見は、概ねは大学院教育の成果を評価するものが多いが、改善を要する場合は、随時、学部教育、卒後臨床研修とならんで、大学院教育にも反映されている。平成 17 年度の岡山医師研修支援機構の発足も、このようなニーズから生まれている。

博士前期・後期課程（薬）では、修了生の就職先等の関係者からアンケートにより意見等を聴取したところ、評価は概ね好評であった（資料 5-2-3）。

資料 5-2-1：岡山大学の教育と卒業生の資質についての企業による評価アンケート
5段階評価で「十分備えている」と「ほぼ備えている」との回答の割合

専門知識：	問題解決能力：	人物：
高度な専門知識・技術：36.1%	専門知識の応用能力：31.5%	意欲・バイタリティー：55.2%
基礎学力：62%	分析力：44.7%	協調性：57.9%
即戦力となる技術・技能：29.7%	情報処理能力：54.4%	責任感：52.6%
免許・資格：35.1%		リーダーシップ：21.6%

(出典：教育開発センター：社会連携作業部会)

資料 5-2-2：医療機関との定期的な懇談と意見交換の場

医学系	岡山医学会総会、岡山大学医学部同窓会総会、関連病院長会議総会を、毎年6月第1土曜日に開催。合同の意見交換会（懇親会）も開催。研究科教授と大学院生の受け入れ先の医療機関関係者が意見交換を行う。
-----	---

歯学系	岡山歯学会総会学術大会：平成19年8月18, 19日 岡山県歯科医師会，岡山県衛生士会，岡山県技工士会，岡山大学歯学部同窓会後援で岡山地区の歯科医療関係者が広く集う学術大会を開催
-----	--

(出典：学務課資料)

資料 5-2-3：博士前期・後期課程（薬）修了生の就職先等の関係者から意見

- ・業務(研究・開発職)に熱意を持って取り組み，上司，同僚，後輩からの信頼が厚い。
- ・仲間に溶け込み，孤立する事が無い。
- ・明朗で，くよくよしない。
- ・思慮深い。
- ・負け犬的感覚を持っていないところが良い。
- ・真面目でよく働く。
- ・特徴がない。
- ・自信をもって業務に励んでほしい。

(出典：創薬生命科学専攻「大学院学生の就職先等関係者へのアンケート」集計結果)

(2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準)期待される水準を大きく上回る。

(判断理由)博士前期課程・後期課程（薬）では，就職状況は良好で，中でも大学及び企業の研究関係の職に就いた者が多数を占めることから，「薬学研究のスペシャリストを養成」との人材養成目標が十分に達成されている。博士課程（医歯）では，研究・教育・医療におけるリーダー，並びに高度な医療職業人の輩出を果たしており，関係者からの評価も概ね良好である。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「大学院医歯薬学総合研究科への改組による教育基盤の充実」(分析項目Ⅰ)

(質の向上があったと判断する取組) 法人化と相前後して、生命科学系の総合大学院を設立するグランドデザインを実現するため、自然科学研究科から創薬生命科学専攻が移行し、医歯学総合研究科と合体して、医歯薬学総合研究科に改組し、多様な人材養成をする基盤を整備した(平成17年度)。特に創薬生命科学専攻では、医歯薬学総合研究科への移行に伴い、学務委員会と薬学系FD委員会が中心となり、授業科目が大幅に改編され、授業内容の改善、学位論文審査の改善が進められた。また、医療教育統合開発センター(平成17年度設置)、岡山医師研修支援機構((平成18年度発足)との有機的な連携のもとにシームレスな教育システムの構築を進めている。さらに修士課程(医歯)において、新履修科目を設定し、社会医学の指導者を養成する新規コースを準備した(平成19年度)。

②事例2「臨床専門医コースの設置」(分析項目Ⅱ, Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組) 法人化以降、国が制度化した各種教育GPに積極的に取組み、高度専門職業人の養成のため、臨床専門医コースを全国に先駆けて開設し、平成19年度の大学院教育改革支援プログラムの2件採択(「ユニット教育による国際保健の実践」及び「医療系大学院高度臨床専門医コース」)につながった。これらの支援により、電子ポートフォリオが仲介する双方向コミュニケーションと横断的医療教育を実践し、研究マインドを持つ優れた臨床専門医の養成を進めている。

④事例3:「文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに採択」(分析項目Ⅱ, Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組) 法人化以降、国が制度化した医療人養成プロジェクトに積極的に取組み、平成19年度、本学が共同申請した「中国・四国広域がんプロ養成プログラムーチーム医療を担うがん専門医療人の養成ー」が採択された。これを受けて中国四国の大学等のコンソーシアムを構築し、平成20年度から「がんプロフェッショナルコース」を開始する。

⑤事例4:「卓越した戦略的研究プロジェクトの授業への反映」(分析項目Ⅱ, Ⅲ)

(質の向上があったと判断する取組) 法人化の時点では、国の戦略的研究プロジェクト等の授業への反映はなかったが、平成18年度科学技術振興調整費イノベーション創出拠点の形成に採択された「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成」の研究成果を研究方法論等に反映している。また、文部科学省「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に採択され、「インド国を拠点とする新興・再興感染症研究」を推進し、拠点リーダーの特別研究等で授業に反映している。

⑥事例5:「博士課程(医歯)の博士論文の質」(分析項目Ⅳ)

(高い質(水準)を維持していると判断する取組) 博士課程(医歯)では、査読付き論文の提出が義務付けられており、ほとんどが英文雑誌に受理されている。医学系においては平成16年度～平成19年度の4年間の課程修了学位論文313編は平均インパクトファクターが3.10点と高い。この状況は法人化以前から既に達成され、高い質(水準)を維持している。

⑦事例6:「博士前期・後期課程(薬)の学会発表、論文発表及び学位取得の推進」(分析項目Ⅳ)

(高い質(水準)を維持していると判断する取組) 学業の成果として学会発表、論文発表及び学位取得を積極的に推進し、学生一人あたり年平均の掲載論文については博士前期課程が0.56編、博士後期課程が1.02編、学会発表については博士前期課程が1.70編、博士後期課程が2.09編と、高い生産性を誇り、学位授与率修士も89%及び博士91%で、そのほ

とんどが標準修業年限内に学位を取得している。この状況は法人化以前から既に達成され、平成16年度～平成19年度の4年間高い質（水準）を維持している。